

第5回北鎌倉駅裏トンネルの安全対策協議会 議事録

■日時 平成26年8月28日（木）14:00～15:30

■場所 山ノ内公会堂

■出席

委員 16団体 山ノ内上町内会、山ノ内瓜ヶ谷町内会、山ノ内明月会町内会、
山ノ内中町北町内会、山ノ内中町南町内会、山ノ内下町上町内会、
山ノ内下町中町内会、山ノ内下町下町内会、市場町内会、小袋谷町内会、
大船町内会、臨濟宗大本山円覚寺、円覚寺塔頭 雲頂庵、
円覚寺 北鎌倉幼稚園、神奈川県立大船高等学校、鎌倉市都市整備部

事務局 鎌倉市都市整備部 石山次長

鎌倉市都市整備部道水路管理課 小柳出担当課長、矢田担当係長

鎌倉市都市整備部道路課 森担当課長、大川課長補佐、坂本主事、水谷担当

サンコーコンサルタント株式会社（北鎌倉トンネル改修設計等業務委託 受託業者）2名

■議事

次第2 前回の協議会確認事項について

（1）第3回の協議会議事録については、意見がなかったため、確定版として配布する。

次第3 鎌倉市文化財専門委員会（以下、「文化財専門委員会」という。）からの意見報告

（1）文化財専門委員会委員から、トンネルの存在する岩崖が鎌倉の境界を示すこと、及び一遍聖絵の巨福呂坂の風景がここであるというのは少なくとも定説ではなく、死守すべき史跡ではないという意見があった。

（2）文化財専門委員会委員から、トンネルの存在する岩崖は、地質学的に貴重であることから、できれば観察できるように配慮してもらいたいとの意見があった。

（3）北鎌倉史跡研究会の「この岩塊は鎌倉の貴重な文化財です。平安時代後期よりこのトンネルの有る岩塊は鎌倉の北の境界でした。もとは前面の鎌倉街道まで伸びてい

たもので、鎌倉時代中期には第三代執権についたばかりの北条泰時が、鎌倉を災いから守る四角四境祭をこの岩の外側で行っています。また、鎌倉時代後期には円覚寺の西側境界ともなりました。一遍上人が第八代執権北条時宗に出会う「一遍聖絵」の有名な巨袋坂の場面は、この岩塊の先端の路上です。鎌倉時代の鎌倉を今にとどめる貴重な遺跡です。」という歴史遺産の保存を訴える意見もある。

次第4 JRとの協議について報告と今後の方針について

- (1) 鎌倉市からJRに対し、トンネルの状況や協議会について説明を行い、トンネルの危険性についての認識の共有及び安全対策への協力を求めたところ、JRもすでにトンネルの状況を確認しており、危険だという認識を持っているとの回答があった。
- (2) JRとしても安全が最優先であり、トンネル部分のJR用地については道路拡幅という形で協力し、工事の際の仮設設置やホーム上屋の撤去などのJR側の工事についての検討を行うとの回答があった。
- (3) JRから、トンネル横の臨時改札口については、工事の中で大船側に移動することは協力するとの回答があった。
- (4) 今後の方針としては、JRから安全対策について協力するとの回答を得られ、工事実施までの期間が短縮されると考えられることから、JRとは緊急仮設工事ではなく、恒久安全対策についての協議を進めていきたいと考える。また、恒久安全対策について地権者や周辺町内会の合意形成をはかっていく。しかしながら、協議調整に時間を要する場合は、緊急仮設工事を実施する場合もある。

次第5 恒久安全対策（案）に対する各委員からの意見

- (1) JRとの協議時間が短縮される見込みとなったことから、緊急仮設工事は省略し、恒久安全対策工事を行うことを、協議会として了承する。恒久安全対策案は、開削工法案とトンネル工法案を比較した結果、開削工法で進めるものとする。これを受

けて、事務局では、地元町内会、地権者およびJRと協議調整を進めていく。

- (2) 恒久対策については、景観に配慮して行うものとし、詳細については協議会で検討していく。
- (3) トンネルの危険性については、地元からの要請があれば事務局が直接説明に伺う。
- (4) トンネルの危険性を鑑み、気象警報発令時等は安全確保のため通行止めとする。このことについて、所轄警察署と協議を実施する。
- (5) トンネルの状態及び通行止めについては、看板を設置し周知をはかることとする。
- (6) 北鎌倉駅への出入り口をトンネルから大船側に設置することについて、協議会としてJRに要望する。

次第6 その他

- (1) 第6回協議会は、平成26年11月20日（木）14時から山ノ内公会堂で開催する。

以上